

宇野田尚哉編・宋惠媛解説

# 在日朝鮮文学会 関係資料

一九四五～六〇

## 在日朝鮮人資料叢書Ⅶ

### 本資料集の刊行意義

▼一九四五年解放から六〇年までの在日朝鮮人の文学的営みの問題点と作品を知る貴重な資料。

▼一九四五～六〇年までの在日朝鮮人たちの精神史を辿る上での基礎資料。

▼祖国の朝鮮戦争と南北分断の状況が在日知識人の文化・文学運動に与えた影響を知ることができる。

▼在日朝鮮人史、日本戦後史研究に欠かせない文献。

■体裁 全3巻・A5判・上製クロス装・ケース入り

■定価 本体54,000円＋税 ISBN978-4-89774-188-8 [分売不可]

■刊行 平成30年4月刊

◆在日朝鮮人資料叢書Ⅷは平成30年7月以降刊行予定です。



## 在日朝鮮人資料叢書 在日朝鮮人運動史研究会監修

- 1 在日朝鮮人史資料 在日朝鮮人運動史研究会編 全2巻/24000円
- 2 在日本朝鮮人商工便覧 一九五七年版 在日本朝鮮人商工連合会編 60000円
- 3 戦後初期在日朝鮮人人口調査資料集 長澤秀編 全2巻/36000円
- 4 在日朝鮮人教育関係資料 佐野通夫編 全3巻/46000円
- 5 朝鮮人強制動員関係資料 山田昭次編(品切) 全2巻/24000円
- 6 在日朝鮮人留学生資料 裴始美編 全3巻/54000円
- 7 在日朝鮮人警察関係資料 福井讓編 全3巻/48000円
- 8 在日朝鮮人生活保護資料 金耿昊編(品切) 全2巻/36000円
- 9 在日朝鮮女性作品集 一九四五～八四 宋惠媛編 全2巻/32000円

## 関東大震災 朝鮮人虐殺裁判資料

山田昭次編/裁判資料として現在知ることが可能な埼玉県(熊谷事件・本庄事件他)と群馬県(藤岡事件他)の地裁・東京控訴院判決書等を収録。 全2巻/36000円

## 資料メディアの中の 在日朝鮮人

国外村大・韓載香・羅京洙編/在日朝鮮人の動向・実態・状況を伝えた一般紙の特集記事・連載記事、また総合雑誌の貴重な記事(一九二〇～四四)を収録。 180000円

## 神奈川 朝鮮学校資料

国大石忠雄編/在日朝鮮人学校問題の歴史的経緯とその実態を正しく理解するための原点的な資料(一九四五～六〇)を中心に編集復刻した。 全2巻/36000円

## 朝鮮人強制動員 韓国調査報告

国龍田光司編/常磐炭田に戦時中、強制動員された朝鮮人の実態の解明と、韓国で被強制動員者の実態を当事者や遺家族から聞き取り調査した報告書。 全2巻/36000円

## 在日朝鮮人文学 資料集

国宋惠媛編/一九五〇年代半ばから六〇年代を中心に刊行された、多彩な在日文学雑誌(朝鮮文化・韓国文芸・鳳仙花文芸等全一七誌)を収録した初の資料集。 全3巻/560000円

## 日本朝鮮研究所 初期資料

国井上學・樋口雄一編/戦後日本の朝鮮研究はどのような形で新たな出発をし、どのような課題を抱えていたのか、創設期及び初期の内部資料を収録。 全3巻/540000円

## 『セチヨソン』 新朝鮮 地方版

国鄭栄桓編/朝鮮戦争中に在日朝鮮人が結成した非公然組織「祖国防衛委員会」機関誌入手困難な西日本・九州・東京等発行の地方版他、全国版欠号分も収録。 A4判/全2巻/460000円

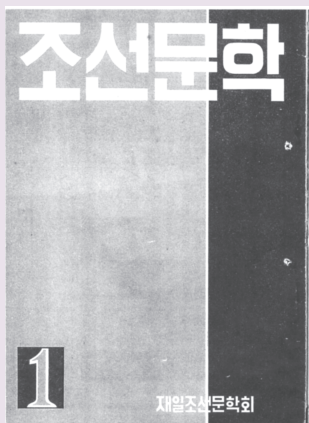
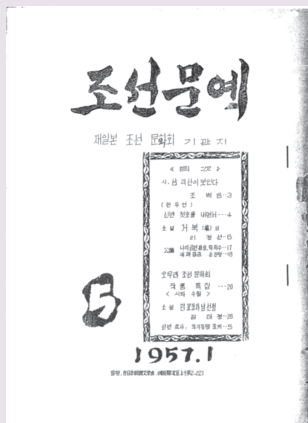
宇野田尚哉(大阪大学教授)編・宋惠媛(在日朝鮮人文学研究者)解説

# 在日朝鮮文学会 関係資料

一九四五～六〇

全3巻

一九四五～六〇年までの在日朝鮮人文学の空白を埋める貴重な資料。当該期の文学活動の場は民族団体の機関紙・誌及び同人誌にほぼ限られており、在日本朝鮮人連盟(朝鮮連)、在日朝鮮統一民主戦線(民戦)、在日本朝鮮人総連合会(総連)の影響下で多くの作品が生み出された。この時期の創作活動の大きな問題の一つは、表現を日本語で多くの作品が生み出された。民戦から総連に組織改編されるなか、五七年の在日朝鮮文学会第七次大会で朝鮮語による創作を主張する作家たちが主導権を握って行くことになる。本書は当該期の在日朝鮮人作家が多数所属していた「在日朝鮮文学会」の機関誌等を中心に収録した。



## 在日朝鮮人 資料叢書 17

在日朝鮮人運動史研究会監修

緑蔭書房

●下記の書店にお申し込み下さい。

## 緑蔭書房

〒173-0004 東京都板橋区板橋 1-13-1  
電話 03 (3579) 5444 FAX03 (6915) 5418  
[消費税が別途加算されます]



## ▼刊行の辞

一九四五年に「解放」を迎えた在日朝鮮人の諸活動のうち、文化・文学面に関する研究は資料の制約があり、蓄積も少なく、十分な検討がされてこなかった。本書では六〇年までの在日朝鮮人文学の空白を埋める貴重な資料を収録した。

在日朝鮮人作家が多く日本文壇に登場するようになる六〇年代以前の文学活動の場は、民族団体の機関紙・誌及び同人誌にほぼ限られていたが、在日本朝鮮人連盟（朝連、四五年結成）、在日朝鮮統一民主戦線（民戦、五一年結成）、在日本朝鮮人総聯合会（総連、五五年結成）の指導・影響下で多くの作品が生み出された。一九四八年に結成され、その後一〇年あまりの間続いた文学団体が、本資料集で扱う資料群の発行母体となった、在日本（在日）朝鮮文学会である。

この時期の創作活動での大きな問題の一つは、表現を日本語にするか朝鮮語にするかであった。解放後、精力的に日本語での活発な創作活動を行っていた金達寿と、朝鮮語を重視する魚塘との間での使用言語をめぐる論争は、その一つの表れである（一九四七年）。五〇年に朝鮮戦争が始まると在日朝鮮文学会の活動は停滞したが、徐々に再起が図られた。同会の機関誌以外にも五三年以降には、民戦の影響下に数多くの在日朝鮮人サークル誌・同人誌が創刊された。

五三年七月、朝鮮戦争は休戦。五五年には総連が結成され、五七年七月、在日朝鮮文学会第七次大会で朝鮮語による創作を主張する作家たちが主導権を握り、民戦時代に優勢だった日本語から朝鮮語の方へ振れる。その後、一九五九年に結成された総連傘下団体の在日朝鮮文学芸術家同盟は、解放以来の在日朝鮮文学者組織の中で最大のものとなり、創作表現は朝鮮語にほぼ一元化される。

第1巻では、第1部　在日朝鮮文学会結成（一九四八年一月）までの資料（金達寿初期評論集、金達寿―魚塘論争資料、『朝鮮文芸』、第2部　在日朝鮮文学会機関誌『文学報』を収録。第2巻では同機関誌『조선문학』（朝鮮文学）、『조선문학』（朝鮮文芸）を収録。第3巻では、第3部　在日朝鮮文学会の周辺資料として、五〇年代後半の路線転換後も独自の創作の場を確保しようとした雑誌、朝鮮語の詩誌『불외』（火種）と日本語の文芸誌『鷄林』を収録した。

## ▼収録資料（抜粋）

### 第1巻

#### 第1部　在日朝鮮文学会の結成まで

##### 一　金達寿初期評論集

「朝鮮文化人への提言(上(中)下)　『国際タイムス』　一九四七年二月六日―九日

「朝鮮「民族文学」運動の開展　わが文化運動の特質(上(中)下)『国際タイムス』一九四七年二月二四日―二六日

「朝鮮文学の性格(上(中)下)　『国際タイムス』一九四七年四月一七日―一九日

「解放後の朝鮮文学の発想」『東京民報』一九四七年二月二九日

#### 二『朝鮮新報』紙上での金達寿―魚塘論争(朝鮮語)

金達寿「日本語で書かれる朝鮮文学」

魚　塘「金達寿氏の日本語で書く朝鮮文学について」

#### 三『朝鮮文芸』朝鮮文芸社

第一号（第五号）　一九四七年一〇月（四八年七月）

李石柱「朝鮮民族文学の展開」

金達寿「昏迷の中から」（文芸時評）

張斗植「うきしずみ」（創作）

金元基「犬子君よ眠れ」（創作）

宋車影「春香伝と李朝末期の庶民精神」（研究）

許南麒「新狂人日記」（創作）

康致哲「灯」（詩）

朴元俊「年代記『解放えの道』第壹章」

崔在鶴「ゴ―ゴリ風景―ゴ―ゴリ・ノート第一」

殷武巖「安川特務刑事」（随筆）

#### 第2部　在日朝鮮文学会機関誌

##### 一『文学報』在日朝鮮文学会

第一年第四号　一九五三年八月

金民「西粉の抗議」

金達寿「たたかう朝鮮文学・芸術の現状」

李静子「ひとやの友に」（詩）

李殷直「私はうったえる―在日朝鮮人として」

### 第2巻

#### 二『조선문학』（朝鮮文学）（朝鮮語版）　在日朝鮮文学会

創刊号（第二号）　一九五四年三月・五月

キム・タルス「わが文学運動の前進のために―在日の朝鮮文学の第五回大会、般報告」

関内均「戦闘詩時人・趙基天―逝去二周年に際して」

リュ・ビョク「童話　うさぎと緑豆令監」

ハン・ソリヤ「前進する朝鮮文学―一九五三年度創作事業の諸成果」

パリ作／ペク・オク訳「短編　謝罪(中国)」

リ・ウォヌ「評論　児童文学の前進のために」

#### 三『조선문예』（朝鮮文芸）（朝鮮語版）　在日本朝鮮文学会

第三号（第九号）　一九五六年一月（五八年三月）

第二次作家大会決定を我が行動綱領をもってより力強く前進しよう

カン・スン「詩　葉っぱ」

第二次朝鮮作家大会文献「朝鮮文学の現状と展望」に関する決定書

第二次中央委員会に提出した常務委員会の活動報告

リュ・ビョク「コント　和解」

キム・ミン「短編　晴れない空」

リ・ギョンソン「小説　亀」

申基錫「密航者の手記」

チョン・ビヨンス「随筆　団結した我が力」

キム・テギョン「詩　故郷に送る歌」

ヤロスラブ・スメラコプ作／キム・ハンソク訳「ブタペストで」

リュ・ビョク「コント　初めての衝突」

ホ・ナムギ「短編　キム・シジョン同務の日本語詩集『時評集』に関連して」

パク・チュニイル「断想・石川啄木―彼の歌「朝鮮国」を読みながら」

キム・ジュテ「詩　雨」

リム・ギョンサン「小説　宋書房」

第七次在日本朝鮮文学会会議の決定

キム・テギョン「小説　妻」

キム・ユンホ「無名詩人夫婦の囁き」

チョン・ファファン「祖国の芸術家らが送ってくださった手紙をもらって」

リュ・ビョク「童話　スナミの作文」

### 第3巻

#### 第3部　在日朝鮮文学会の周辺

##### 一　詩・詩論『불외』（火種・불외의）　불외同人会

第一号・第二号（朝鮮語版）　一九五七年一月・八月

姜舜「彼」

具本彩「訣別」

金太中「知っている」

呉林俊「異域で」

金棟日「魚」

金時鐘「追悼詩―慎んで安世勲先生の霊前に捧げます」

呉林俊「望郷」

金宙泰「鶴」

##### 第三号（日本語版）　一九五七年一月

姜舜「いとしい地球」

黄寅秀「不在」

金時鐘「鍵を持つ手」

李漢稷／姜舜訳「氾濫」

ブリュートフ／安宇植訳「石工」

#### 二『鷄林』鷄林社

第一号（第五号）　一九五八年一月（五九年二月）

林進山「日本の予算と朝鮮人の財政的義務」

趙奎錫「金史良登場前後」

林趾源・許南麒訳「小説　西班牙」

朴春日「近代日本文学における朝鮮像―研究ノート」

裴秉斗「在日朝鮮人の帰国運動について」

趙奎錫「日本のなかの朝鮮人―金史良登場前後」

尹学準「朝鮮の姓氏のはなし」

金達寿「小説　まくわ瓜と皇帝」

李賛義「新国家保安法の通過と南朝鮮」

朴宗根「朝鮮に於ける地閥と人間の問題―その歴史的な側面」

趙奎錫「金史良の登場と私」

尹世重・尹学準訳「小説　象牙のパイプ」

金達寿「わが家の帰国―在日朝鮮人の帰国によせて」

金泰生「わがふるさと・済州島」

金正「読者の声　北海道から」

下宰洙「狐鶴」（小説）

尹学準「帰る人―在日朝鮮人の帰国」

下宰洙「文学の党派性と作家の創造的自由」

金達寿「病氣・入院の記」

尹紫遠「小説　うぶごえ」

#### 在日朝鮮人文化運動関連年表　一九四五（六）

一九四五年一〇月　「在日本朝鮮人連盟」（朝連）結成

一九四七年　二月　朝連系の文化人により「在日朝鮮文学者会」結成、一〇月、『朝鮮文藝』（朝鮮文藝社）創刊

二月　諸分野の左右の文化団体が集まって「在日本文化団体連合（文団連）を結成

七月（一〇月）『朝鮮新報』紙上で金達寿―魚塘論争

一九四八年　一月　「在日朝鮮文学会」結成、翌年六月、同機関誌『문화（烽火）』創刊

一九五〇年　六月　朝鮮戦争始まる

一九五二年　四月　サンフランシスコ講和条約発効

二月　民戦傘下の「在日朝鮮文学芸術家総会」結成

民戦の影響下で『チンダレ』（二月創刊）等のサークル誌・同人誌創刊ラッ

シユ

一九五三年　三月　在日朝鮮文学会機関誌『文学報』創刊

七月　朝鮮戦争休戦

一九五四年　三月　在日朝鮮文学会機関誌『조선문학（朝鮮文学）』創刊

一九五五年　五月　民戦に代わり総連結成。その傘下団体として「在日本朝鮮文化団体協議

会」結成。

一九五六年一月　『조선문학（朝鮮文学）』が『조선문예（朝鮮文芸）』と改題され、通巻第三号を発行

一九五七年　一月　朝鮮語詩誌『불외（火種）』創刊

七月　在日朝鮮文学会第七次大会で朝鮮語作家達が主導権を握る

一九五八年一月　張斗植、金達寿らが日本語文芸誌『鷄林』創刊

一九五九年二月　総連の傘下団体「在日本朝鮮文学芸術家」同盟（文芸同）結成。解放後の在日朝鮮文学組織の中で最大のものです、一九六〇年代に最盛期を迎える朝鮮語創作活動の下地を作った